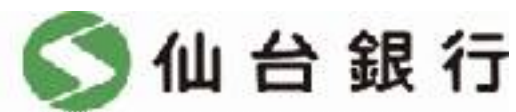


会社説明会

～ 平成26年3月期 ～

Yamagata

Miyagi



平成26年6月20日

1. 平成26年3月期決算の状況

①損益の状況	… 1
②コア業務純益の増減要因	… 3
③貸出金の状況	… 4
④預金（譲渡性預金を含む）の状況	… 5
⑤預かり資産の状況	… 6
⑥有価証券の状況	… 7
⑦各種利回り・利鞘の状況	… 8
⑧経費の状況	… 9
⑨金融再生法開示債権の状況	… 10
⑩自己資本比率の状況	… 11
⑪平成27年3月期業績予想	… 12

2. 両行における取組みについて

①仙台銀行のトピックス	
～アクティブリスニングによる本業支援～	… 13
～震災復興支援に向けた取組み～	… 14
②きらやか銀行のトピックス	
～チームきらやかとしての本業支援～	… 15
～きらやかさんプロジェクト～	… 16

3. じもとホールディングスの取組みについて

①平成26年度じもとホールディングスの グループ計画	… 17
②じもとホールディングスの グループ戦略について	… 18
③じもとホールディングスのトピックス	
～両行が連携した取組み～	… 19
～両行共同での取組み～	… 20
④じもとグループの内部管理態勢	… 21

【参考】じもとホールディングスの 預貸金状況（平成26年3月末）	… 22
-------------------------------------	------

1. 平成26年3月期 決算の状況

①損益の状況

(1)じもとホールディングス連結

(単位:百万円、%)

	25年3月期	26年3月期	前年同期比	増減率
連結経常収益	33,838	41,548	7,710	22.7
連結経常利益	2,036	6,114	4,078	200.2
連結当期純利益	1,950	4,661	2,711	139.0

○じもとホールディングスの連結経常収益は415億48百万円、連結経常利益は61億14百万円、連結当期純利益は46億61百万円となりました。

※25年3月期の連結決算は、24年10月のじもとホールディングス設立に際して、企業結合会計上の取得企業をきらやか銀行としたため、きらやか銀行の連結決算を基礎に、仙台銀行の平成24年10月～25年3月の連結決算を連結したものとなっております。

(2)2行合算

(単位:百万円、%)

	25年3月期	26年3月期	前年同期比	増減率
経常収益	43,727	41,538	△2,188	△5.0
業務粗利益	33,937	33,078	△858	△2.5
資金利益	30,436	30,024	△411	△1.3
役務取引等利益	2,738	2,990	251	9.1
その他業務利益	761	62	△698	△91.7
うち国債等債券損益	506	47	△459	△90.5
経費(除く臨時処理分)	25,595	25,660	65	0.2
うち人件費	12,492	12,535	42	0.3
うち物件費	11,744	11,730	△14	△0.1
業務純益(一般貸倒繰入前)	8,342	7,417	△924	△11.0
コア業務純益	7,835	7,370	△465	△5.9
一般貸倒引当金繰入額	△734	△96	638	—
業務純益	9,076	7,514	△1,562	△17.2
臨時損益	△5,502	△1,000	4,502	—
うち不良債権処理額	2,762	865	△1,897	△68.6
うち個別貸倒引当金繰入額	1,158	551	△607	△52.4
うち貸倒引当金戻入益	2,130	557	△1,572	△73.8
うち株式等関係損益	△498	265	764	—
経常利益	3,573	6,513	2,940	82.2
特別損益	△157	△1,581	△1,424	—
当期純利益	3,424	4,772	1,348	39.3
与信関係費用	△134	193	328	—

○2行合算の経常収益は、前年同期比21億88百万円減少の415億38百万円(増減率△5.0%)となりました。

○銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、役務取引等利益が増加したものの、資金利益の減少等により、前年同期比4億65百万円減少の73億70百万円(増減率△5.9%)となりました。

○経常利益は不良債権処理額の減少等により、前年同期比29億40百万円増加の65億13百万円、当期純利益は前年同期比13億48百万円増加の47億72百万円となりました。

①損益の状況

(3) きらやか銀行単体

(単位:百万円、%)

	25年3月期	26年3月期	前年同期比	増減率
経常収益	25,975	24,874	△ 1,101	△ 4.2
業務粗利益	21,412	20,058	△ 1,354	△ 6.3
資金利益	19,352	18,372	△ 979	△ 5.0
役務取引等利益	1,396	1,490	94	6.7
その他業務利益	664	195	△ 469	△ 70.6
うち国債等債券損益	414	184	△ 229	△ 55.3
経費(除く臨時処理分)	14,890	14,734	△ 156	△ 1.0
うち人件費	7,541	7,712	171	2.2
うち物件費	6,608	6,296	△ 311	△ 4.7
業務純益(一般貸倒繰入前)	6,522	5,324	△ 1,197	△ 18.3
コア業務純益	6,108	5,139	△ 968	△ 15.8
一般貸倒引当金繰入額	△ 734	△ 96	638	—
業務純益	7,256	5,420	△ 1,835	△ 25.2
臨時損益	△ 6,112	△ 1,978	4,134	—
うち不良債権処理額	2,649	749	△ 1,900	△ 71.7
うち個別貸倒引当金繰入額	1,158	551	△ 607	△ 52.4
うち株式等関係損益	△ 112	191	303	—
経常利益	1,143	3,442	2,298	200.9
特別損益	△ 29	△ 1,077	△ 1,048	—
当期純利益	1,073	2,239	1,166	108.6
与信関係費用	1,915	650	△ 1,264	△ 66.0

- 経常収益は、有価証券利息配当金及び役務取引等収益が増加したものの、貸出金利息が減少したことなどから、前年同期比11億1百万円減少の248億74百万円(増減率△4.2%)となりました。
- 銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、役務取引等利益が増加し、物件費が減少した一方で、資金利益が減少したことなどから、前年同期比9億68百万円減少の51億39百万円(増減率△15.8%)となりました。
- 与信関係費用は、前年同期比12億64百万円減少の6億50百万円となりました。
- この結果、経常利益は前年同期比22億98百万円増加の34億42百万円、当期純利益は前年同期比11億66百万円増加の22億39百万円となりました。

(4) 仙台銀行単体

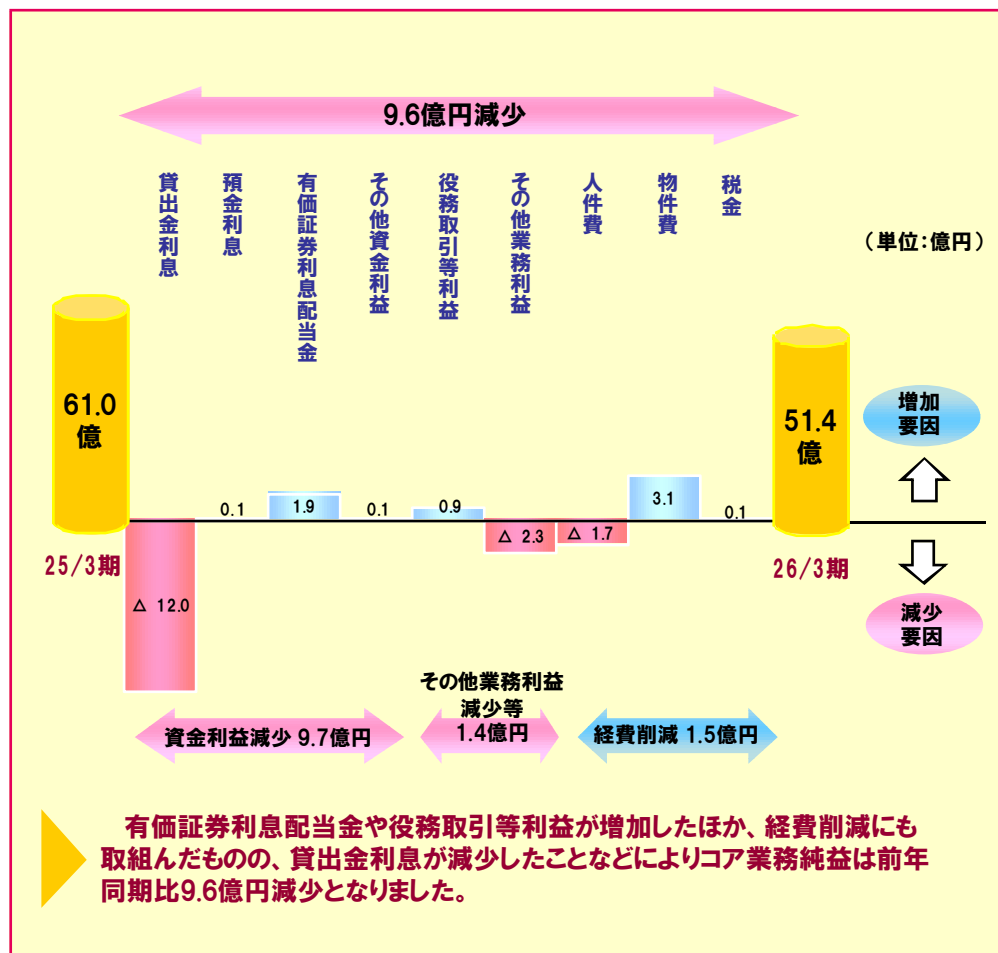
(単位:百万円、%)

	25年3月期	26年3月期	前年同期比	増減率
経常収益	17,751	16,664	△ 1,086	△ 6.1
業務粗利益	12,524	13,020	495	3.9
資金利益	11,084	11,652	567	5.1
役務取引等利益	1,342	1,500	157	11.7
その他業務利益	97	△ 132	△ 229	△ 235.5
うち国債等債券損益	92	△ 137	△ 229	△ 247.9
経費(除く臨時処理分)	10,704	10,926	222	2.0
うち人件費	4,951	4,823	△ 128	△ 2.5
うち物件費	5,135	5,433	297	5.7
業務純益(一般貸倒繰入前)	1,820	2,093	273	15.0
コア業務純益	1,727	2,230	503	29.1
一般貸倒引当金繰入額	—	—	—	—
業務純益	1,820	2,093	273	15.0
臨時損益	609	977	367	60.2
うち不良債権処理額	112	115	2	2.5
うち個別貸倒引当金繰入額	—	—	—	—
うち貸倒引当金戻入益	2,130	557	△ 1,572	△ 73.8
うち株式等関係損益	△ 385	74	460	—
経常利益	2,429	3,071	641	26.3
特別損益	△ 128	△ 504	△ 376	—
当期純利益	2,350	2,532	182	7.7
与信関係費用	△ 2,049	△ 456	1,593	—

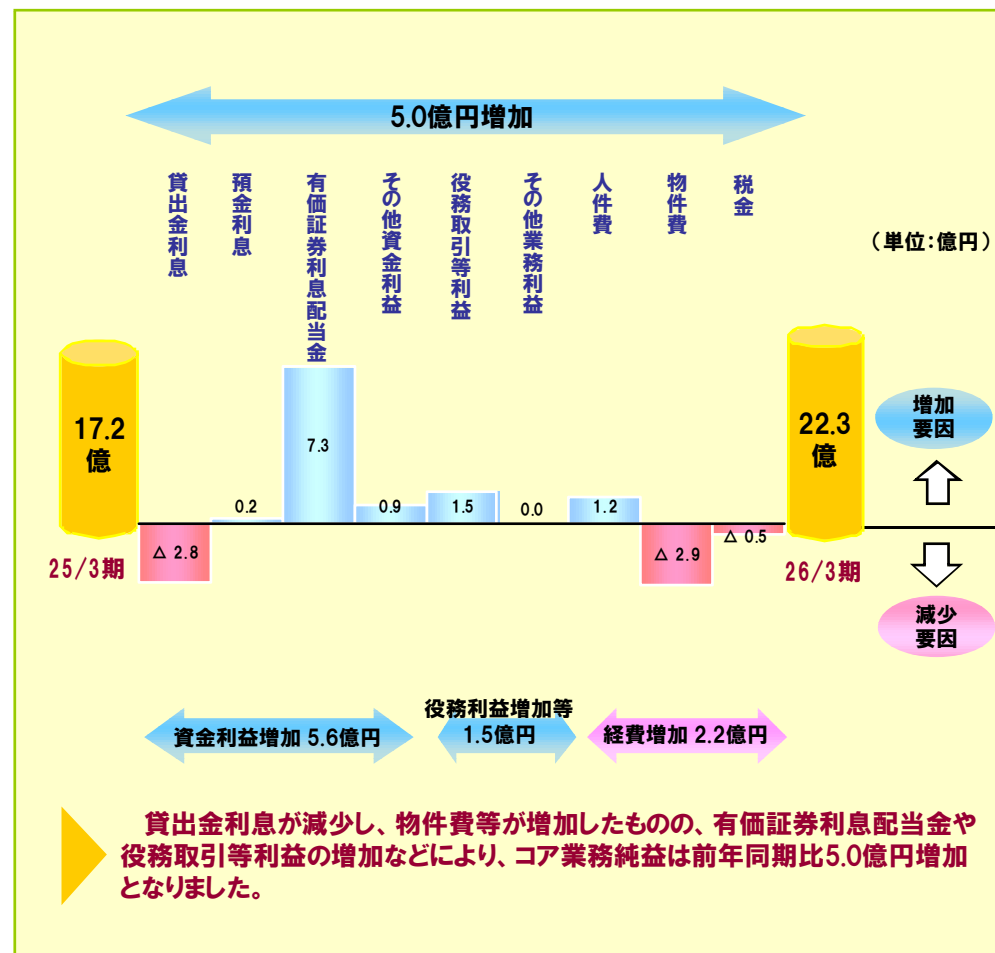
- 経常収益は、有価証券利息配当金や役務取引等収益が増加したものの、貸倒引当金戻入益や国債等債券売却益が減少したことなどから、前年同期比10億86百万円減少の166億64百万円(増減率△6.1%)となりました。
- 銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、平成25年5月のシステム移行に伴い物件費が増加した一方で、資金利益や役務取引等利益が増加したことなどから、前年同期比5億3百万円増加の22億30百万円(増減率29.1%)となりました。
- 与信関係費用は、貸倒引当金戻入益5億57百万円の計上により、4億56百万円の戻入れとなりました。
- この結果、経常利益は前年同期比6億41百万円増加の30億71百万円、当期純利益は前年同期比1億82百万円増加の25億32百万円となりました。

②コア業務純益の増減要因

(1) きらやか銀行

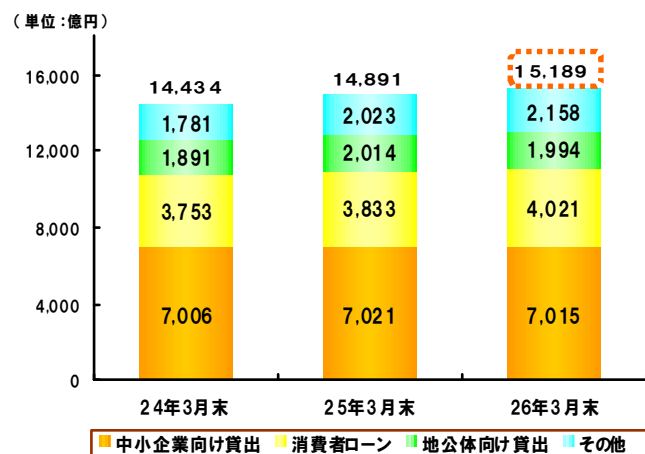


(2) 仙台銀行



③貸出金の状況

(1) 2行合算

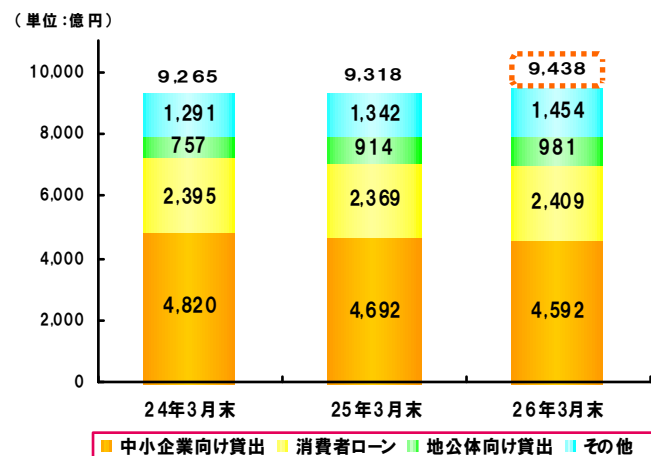


(単位:百万円、%)

	25年 3月末	26年 3月末	25年 3月末比	増減率
貸出金(末残)	1,489,194	1,518,935	29,740	1.9
うち中小企業向け貸出残高	702,127	701,515	△ 612	△ 0.0
うち消費者ローン	383,304	402,116	18,811	4.9
うち住宅ローン	360,708	378,578	17,870	4.9
うち地方公共団体向け貸出	201,462	199,435	△ 2,026	△ 1.0

○ 2行合算の貸出金残高は、前年比297億40百万円増加の1兆5,189億35百万円となりました。

(2) きらやか銀行

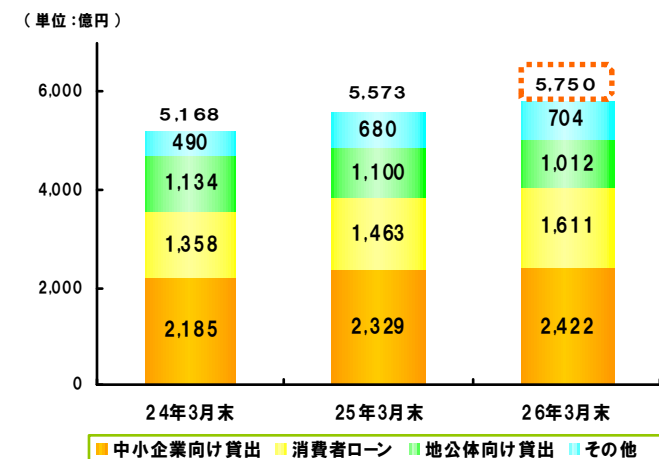


(単位:百万円、%)

	25年 3月末	26年 3月末	25年 3月末比	増減率
貸出金(末残)	931,867	943,847	11,980	1.2
うち中小企業向け貸出残高	469,212	459,275	△ 9,937	△ 2.1
うち消費者ローン	236,984	240,972	3,988	1.6
うち住宅ローン	224,623	228,696	4,073	1.8
うち地方公共団体向け貸出	91,410	98,165	6,755	7.3

- 貸出金残高は、前年比119億80百万円増加の9,438億47百万円となりました。
- 中小企業向け貸出は、前年比99億37百万円減少の4,592億75百万円となりました。
- 消費者ローンは、住宅ローン貸出の増加により、前年比39億88百万円増加の2,409億72百万円となりました。
- 地方公共団体向け貸出は、前年比67億55百万円増加の981億65百万円となりました。

(3) 仙台銀行



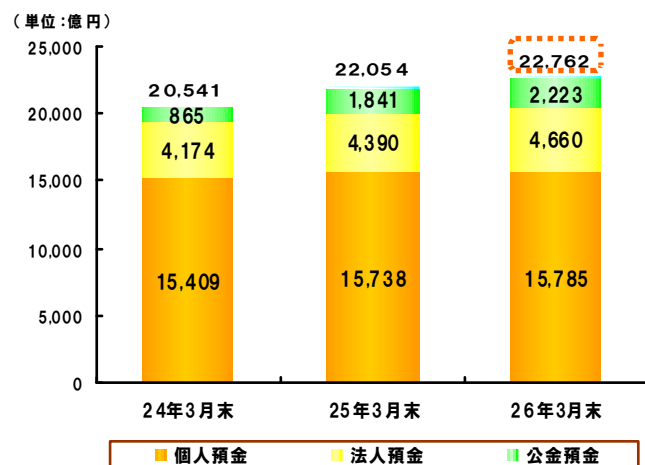
(単位:百万円、%)

	25年 3月末	26年 3月末	25年 3月末比	増減率
貸出金(末残)	557,327	575,087	17,760	3.1
うち中小企業向け貸出残高	232,914	242,239	9,325	4.0
うち消費者ローン	146,320	161,144	14,823	10.1
うち住宅ローン	136,085	149,882	13,796	10.1
うち地方公共団体向け貸出	110,052	101,270	△ 8,781	△ 7.9

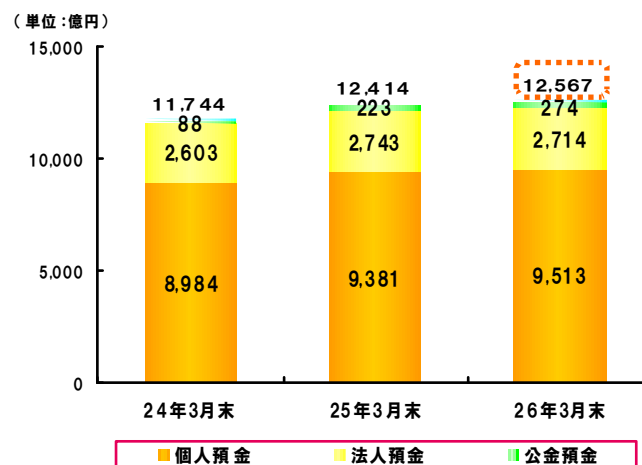
- 貸出金残高は、前年末比177億60百万円増加の5,750億87百万円となりました。
- 中小企業向け貸出は、震災復旧・復興に係る様々な資金需要への対応により、前年末比93億25百万円増加の2,422億39百万円となりました。
- 消費者ローンは、住宅ローン貸出の増加により、前年末比148億23百万円増加の1,611億44百万円となりました。
- 地方公共団体向け貸出は、前年末比87億81百万円減少の1,012億70百万円となりました。

④預金(譲渡性預金を含む)の状況

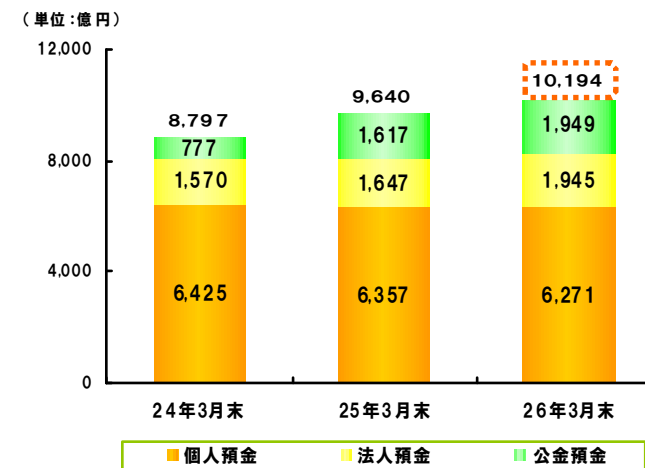
(1) 2行合算



(2) きらやか銀行



(3) 仙台銀行



(単位:百万円、%)

	25年 3月末	26年 3月末	25年 3月末比	増減率
預金(譲渡性預金含む)(末残)	2,205,421	2,276,217	70,796	3.2
うち個人預金	1,573,853	1,578,506	4,653	0.2
うち法人預金	439,090	466,049	26,958	6.1
うち公金預金	184,105	222,398	38,292	20.7

(単位:百万円、%)

	25年 3月末	26年 3月末	25年 3月末比	増減率
預金(譲渡性預金含む)(末残)	1,241,410	1,256,779	15,369	1.2
うち個人預金	938,140	951,307	13,166	1.4
うち法人預金	274,319	271,469	△ 2,849	△ 1.0
うち公金預金	22,353	27,458	5,104	22.8

(単位:百万円、%)

	25年 3月末	26年 3月末	25年 3月末比	増減率
預金(譲渡性預金含む)(末残)	964,011	1,019,438	55,426	5.7
うち個人預金	635,713	627,199	△ 8,513	△ 1.3
うち法人預金	164,771	194,579	29,807	18.0
うち公金預金	161,751	194,940	33,188	20.5

○ 2行合算の預金残高は、前年比707億96百万円増加の2兆2,762億17百万円となりました。

○ 預金残高は、個人預金・公金預金が増加したことにより、前年比153億69百万円増加の1兆2,567億79百万円となりました。

○ 個人預金は、両行合同で実施したキャンペーン預金への預入増加などにより、前年比131億66百万円増加の9,513億7百万円となりました。

○ 法人預金は、企業の手元流動性預金が減少していることなどにより、前年比28億49百万円減少の2,714億69百万円となりました。

○ 公金預金は、前年比51億4百万円増加の274億58百万円となりました。

○ 預金残高は、公金預金や法人預金の増加により、前年比554億26百万円増加の1兆194億38百万円となりました。

○ 個人預金は、5月のシステム移行に伴い一部預金科目の移動があったことなどから、前年比85億13百万円減少の6,271億99百万円となりました。

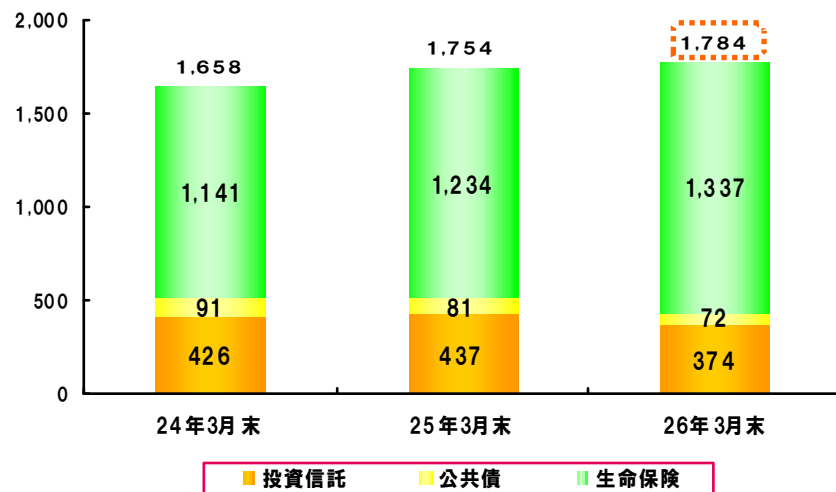
○ 法人預金は、上記要因や企業の手持資金の増加などにより、前年比298億7百万円増加の1,945億79百万円となりました。

○ 公金預金は、前年比331億88百万円増加の1,949億40百万円となりました。

⑤預かり資産の状況

(1) きらやか銀行

(単位:億円)



(単位:百万円、%)

	25年 3月末	26年 3月末	25年 3月末比	増減率
預かり資産(末残)	175,408	178,463	3,055	1.7
うち投資信託	43,740	37,432	△ 6,307	△ 14.4
うち公共債(国債等)	8,188	7,256	△ 931	△ 11.3
うち生命保険	123,479	133,774	10,294	8.3

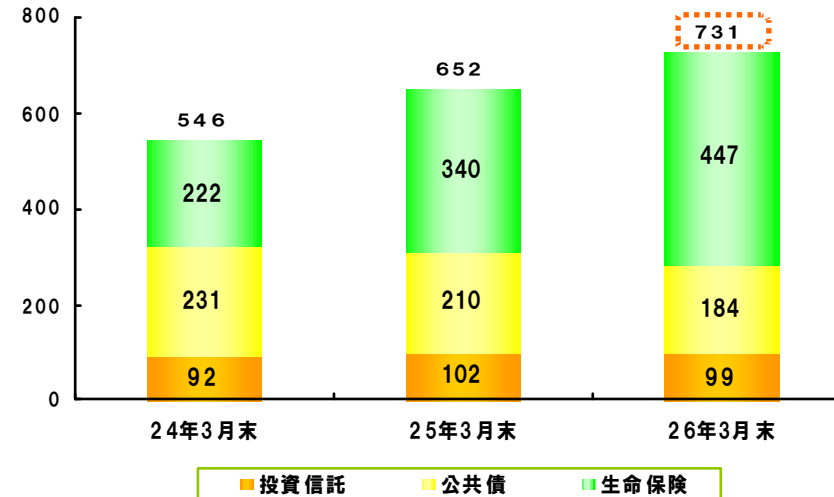
(注)生命保険残高は、成約累計残高としており、解約分は考慮していません。

- 預かり資産残高は、前年比30億55百万円増加の1,784億63百万円となりました。
- 投資信託は、26年1月からの税制変更に伴う利益確定などにより、前年比63億7百万円減少の374億32百万円となりました。
- 公共債は、前年比9億31百万円減少の72億56百万円となりました。
- 生命保険は、平成25年4月よりFA(※)を増員するなどの販売強化により、前年比102億94百万円増加の1,337億74百万円となりました。

※FA=ファイナンシャルアドバイザー

(2) 仙台銀行

(単位:億円)



(単位:百万円、%)

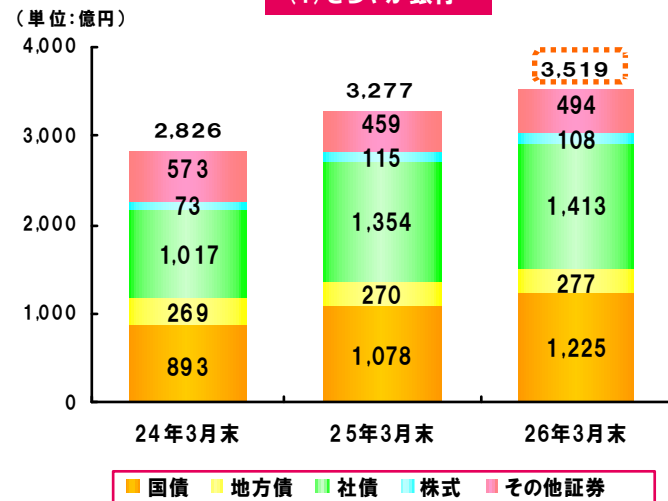
	25年 3月末	26年 3月末	25年 3月末比	増減率
預かり資産(末残)	65,287	73,132	7,845	12.0
うち投資信託	10,248	9,980	△ 268	△ 2.6
うち公共債(国債等)	21,005	18,402	△ 2,603	△ 12.3
うち生命保険	34,032	44,750	10,718	31.4

(注)生命保険残高は、成約累計残高としており、解約分は考慮していません。

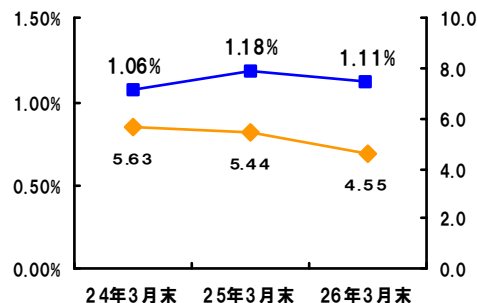
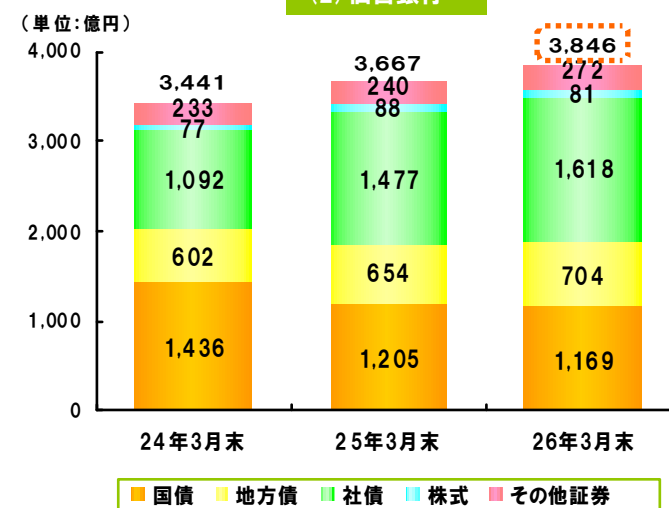
- 預かり資産残高は、前年比78億45百万円増加の731億32百万円となりました。
- 投資信託は、26年1月からの税制変更に伴う利益確定などにより、前年比2億68百万円減少の99億80百万円となりました。
- 公共債は、前年比26億3百万円減少の184億2百万円となりました。
- 生命保険は、営業店による販売強化により、前年比107億18百万円増加の447億50百万円となりました。

⑥有価証券の状況

(1) きらやか銀行

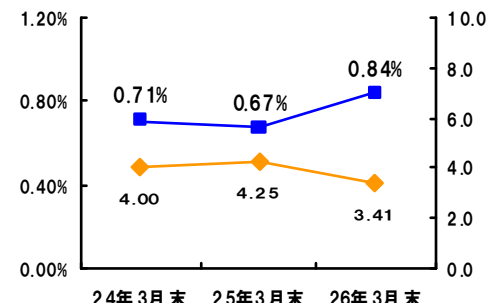


(2) 仙台銀行



その他有価証券の評価損益 (単位: 百万円)

	25年 3月末	26年 3月末	25年 3月末比
その他有価証券	3,794	2,530	△ 1,264
株式	293	535	241
債券	4,363	2,726	△ 1,636
その他	△ 862	△ 731	130



その他有価証券の評価損益 (単位: 百万円)

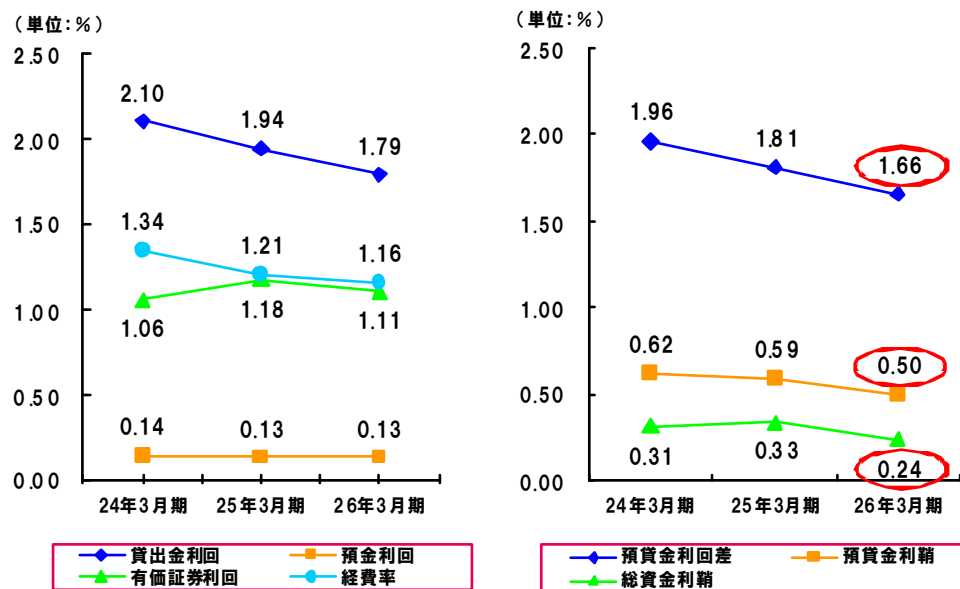
	25年 3月末	26年 3月末	25年 3月末比
その他有価証券	7,451	5,960	△ 1,490
株式	1,624	2,101	476
債券	5,534	3,868	△ 1,666
その他	291	△ 9	△ 301

- 有価証券残高は、預金残高が増加したことに伴い、債券を中心に運用したことから、前年比241億19百万円増加の3,519億13百万円となりました。
- その他有価証券の評価損益は、前年比12億64百万円減少し、25億30百万円の評価益となりました。
- 保有債券の修正デュレーション(固定債のみ) 4.55(前年比▲0.89)

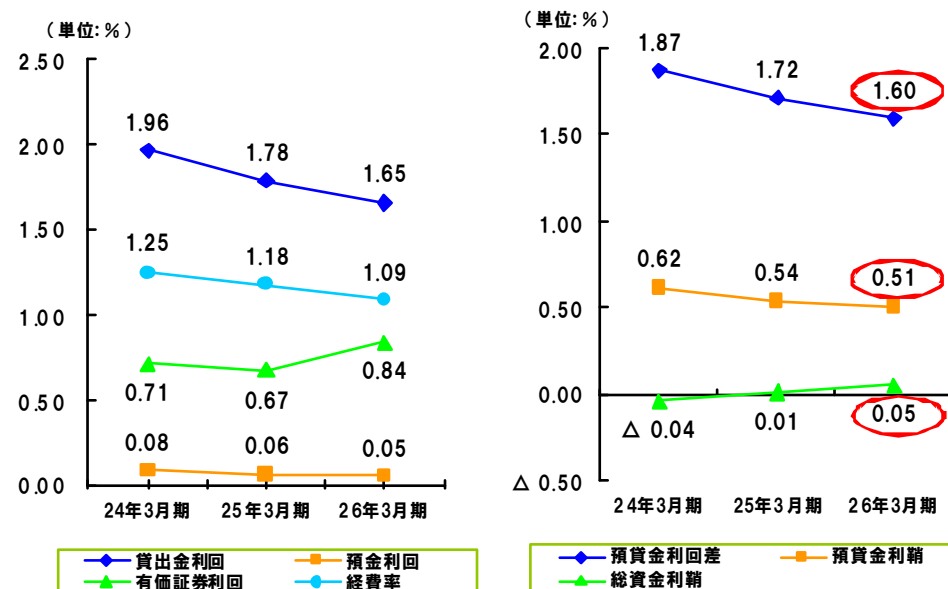
- 有価証券残高は、預金残高の増加に伴い社債や地方債等による運用額を増加したことなどから、前年比179億42百万円増加の3,846億64百万円となりました。
- その他有価証券の評価損益は、前年比14億90百万円減少し、59億60百万円の評価益となりました。
- 保有債券の修正デュレーション(固定債のみ) 3.41(前年比▲0.84)

⑦各種利回り・利鞘の状況

(1) きらやか銀行



(2) 仙台銀行

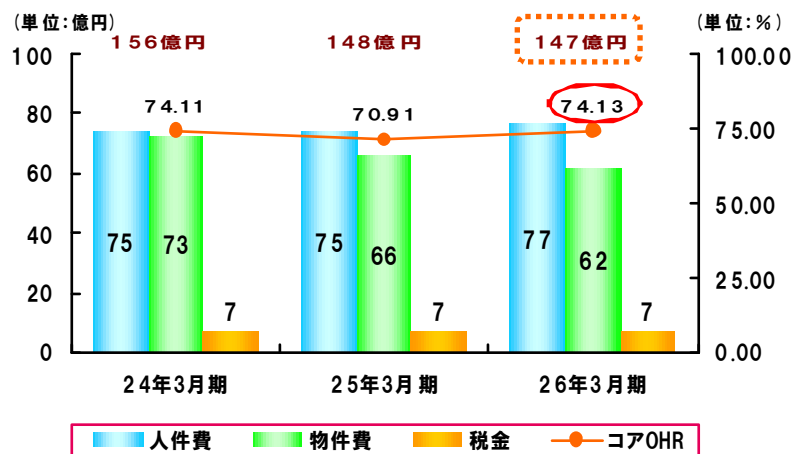


- 預貸金利回差 1.66%(前年同期比0.15p低下)
市場金利の低下により、貸出金の利回りが低下しました。預金利回りは前年同水準となったことから、貸出金利回が低下(0.15p)した分、前年同期比低下となりました。
- 預貸金利鞘 0.50%(前年同期比0.09p低下)
経費は減少したものの、預貸金利回差が縮小したことにより、前年同期比マイナスとなりました。
- 総資金利鞘 0.24%(前年同期比0.09p低下)
資金運用利回りの低下を資金調達原価の低下でカバーができなかったため、前年同期比マイナスとなりました。

- 預貸金利回差 1.60%(前年同期比0.12p低下)
市場金利の低下により基準金利が引き下げとなり、預金・貸出金ともに利回りが低下しました。預金利回りの低下(0.01p)を貸出金利回の低下(0.13p)が上回ったことで前年同期比低下となりました。
- 預貸金利鞘 0.51%(前年同期比0.03p低下)
経費は減少したものの、預貸金利回差が縮小したことにより、前年同期比マイナスとなりました。
- 総資金利鞘 0.05%(前年同期比0.04p上昇)
資金運用利回りの低下を資金調達原価の低下が上回ったため、前年同期比プラスとなりました。

⑧経費の状況

(1) きらやか銀行



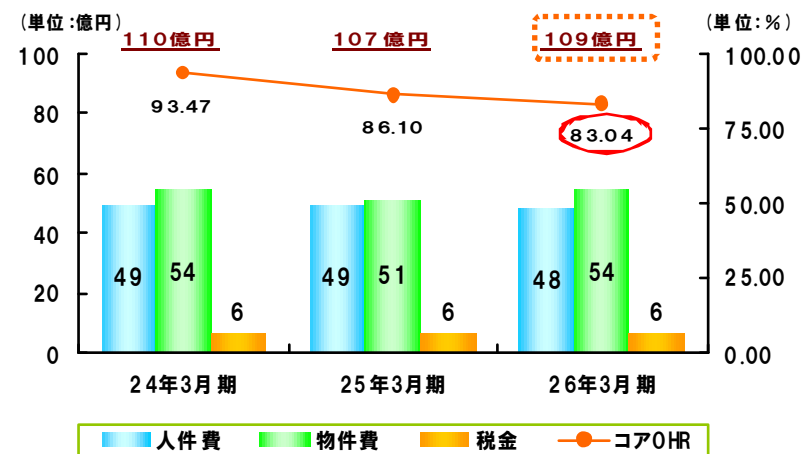
(単位:百万円)

	24年3月末	25年3月末	26年3月末
一人当たり預金	1,260	1,339	1,331
一人当たり貸出金	994	1,005	999
一店舗当たり預金	14,681	15,517	16,112
一店舗当たり貸出金	11,582	11,648	12,100
店舗数(店)	80	80	78
行員数(人)	932	927	944

※店舗数については、ランチ・イン・ランチ実施店を1店舗として計上。
※行員数は、正行員数で出向者を除く

- 経費は、物件費を中心とした経費削減に努めたことにより、前年同期比1億56百万円減少の147億34百万円となりました。
- コアOHRは経費が減少したものの、コア業務粗利益が減少したため、前年同期比3.22ポイント上昇の74.13%となりました。

(2) 仙台銀行



(単位:百万円)

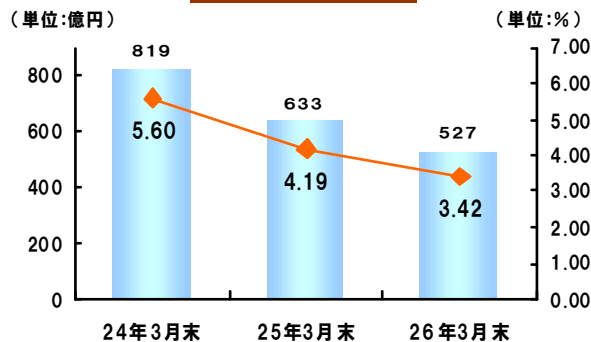
	24年3月末	25年3月末	26年3月末
一人当たり預金	1,180	1,344	1,417
一人当たり貸出金	693	777	799
一店舗当たり預金	14,189	15,803	16,712
一店舗当たり貸出金	8,336	9,136	9,427
店舗数(店)	62	61	61
行員数(人)	745	717	719

※店舗数については、ランチ・イン・ランチ実施店を1店舗として計上。
※行員数は、正行員数で出向者を除く

- 経費は、平成25年5月のシステム移行に伴う物件費の増加などから、前年同期比2億22百万円増加の109億26百万円となりました。
- コアOHRは経費が増加したものの、コア業務粗利益が増加したため、前年同期比3.14ポイント低下の83.04%となりました。

⑨金融再生法開示債権の状況

(1) 2行合算



金融再生法開示債権残高 (青い棒) 総与信に占める割合 (オレンジの線)

①金融再生法開示債権残高 (単位: 百万円、%)

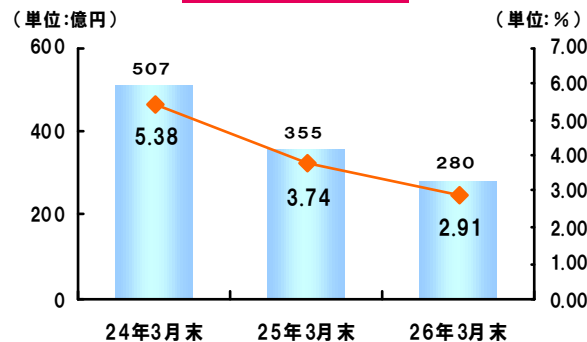
	25年 3月末	26年 3月末	25年 3月末比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	8,692	6,980	△ 1,711
危険債権	50,072	40,877	△ 9,195
要管理債権	4,634	4,933	298
合計 (A)	63,399	52,791	△ 10,607
正常債権	1,446,288	1,488,012	41,724
総与信額 (B)	1,509,687	1,540,803	31,116
(A / B)	4.19	3.42	△ 0.77

②金融再生法開示債権の保全状況 (26年3月末) (単位: 百万円、%)

	債権額 (A)	保全額 (B)		保全率 (B/A)	
		担保保証等	貸倒引当金	担保保証等	貸倒引当金
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	6,980	6,980	3,714	3,266	100.00
危険債権	40,877	36,249	30,652	5,597	88.67
要管理債権	4,933	1,357	877	480	27.52
合計	52,791	44,587	35,243	9,344	84.46

- 2行合算の金融再生法開示債権残高は、前年比億106億7百万円減少の527億91百万円となりました。
- 総与信額に対する比率は、前年比0.77ポイント低下の3.42%となりました。
- 金融再生法開示債権の保全率は、84.46%となりました。

(2) きらやか銀行



金融再生法開示債権残高 (青い棒) 総与信に占める割合 (オレンジの線)

①金融再生法開示債権残高 (単位: 百万円、%)

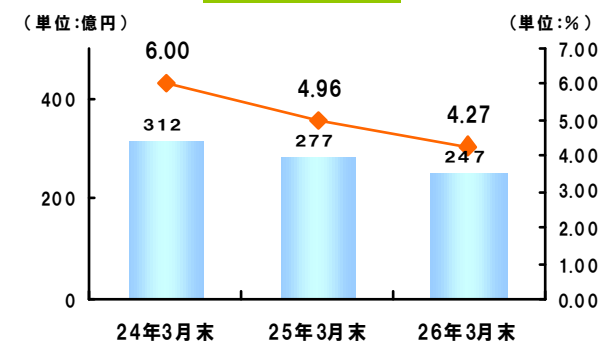
	25年 3月末	26年 3月末	25年 3月末比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	4,704	4,583	△ 121
危険債権	26,730	19,825	△ 6,904
要管理債権	4,164	3,616	△ 548
合計 (A)	35,599	28,024	△ 7,574
正常債権	913,725	933,769	20,043
総与信額 (B)	949,324	961,793	12,469
(A / B)	3.74	2.91	△ 0.83

②金融再生法開示債権の保全状況 (26年3月末) (単位: 百万円、%)

	債権額 (A)	保全額 (B)		保全率 (B/A)	
		担保保証等	貸倒引当金	担保保証等	貸倒引当金
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	4,583	4,583	2,192	2,391	100.00
危険債権	19,825	15,802	12,858	2,943	79.70
要管理債権	3,616	540	224	315	14.93
合計	28,024	20,925	15,275	5,649	74.66

- 金融再生法開示債権の残高は、前年比75億74百万円減少の280億24百万円となりました。
- 総与信額に対する比率は、前年比0.83ポイント低下の2.91%となりました。きらやかターンアラウンド・パートナーズ(株)も含めた比率は前年比1.12ポイント低下の3.11%となりました。
- 金融再生法開示債権の保全率は、74.66%となりました。

(3) 仙台銀行



金融再生法開示債権残高 (青い棒) 総与信に占める割合 (オレンジの線)

①金融再生法開示債権残高 (単位: 百万円、%)

	25年 3月末	26年 3月末	25年 3月末比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	3,987	2,397	△ 1,589
危険債権	23,342	21,052	△ 2,290
要管理債権	469	1,317	847
合計 (A)	27,799	24,766	△ 3,033
正常債権	532,562	554,243	21,680
総与信額 (B)	560,362	579,009	18,647
(A / B)	4.96	4.27	△ 0.69

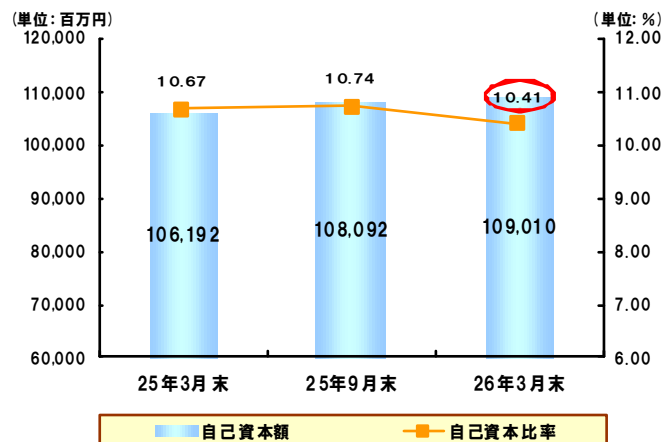
②金融再生法開示債権の保全状況 (26年3月末) (単位: 百万円、%)

	債権額 (A)	保全額 (B)		保全率 (B/A)	
		担保保証等	貸倒引当金	担保保証等	貸倒引当金
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2,397	2,397	1,522	875	100.00
危険債権	21,052	20,447	17,793	2,654	97.12
要管理債権	1,317	817	652	165	62.08
合計	24,766	23,662	19,967	3,694	95.54

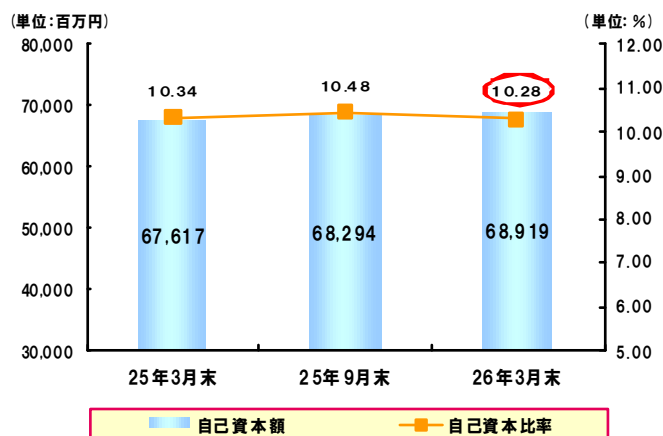
- 金融再生法開示債権残高は、一部被災企業の業況好転や約定返済などから、前年比30億33百万円減少の247億66百万円となりました。
- 総与信額に占める比率は、前年比0.69ポイント低下の4.27%となりました。
- 金融再生法開示債権の保全率は、95.54%となりました。

⑩自己資本比率の状況

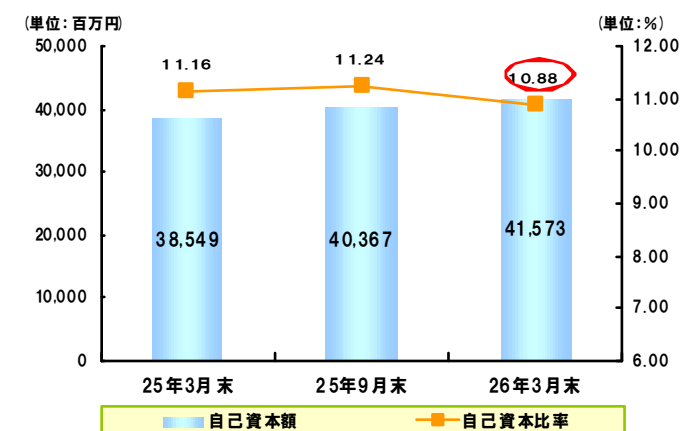
(1) じもとホールディングス連結



(2) きらやか銀行



(3) 仙台銀行



	旧基準		新基準	(単位: %)	
	25年 3月末	25年 9月末	26年 3月末	25年 3月末比	25年 9月末比
連結自己資本比率	10.67	10.74	10.41	—	—

	旧基準		新基準	(単位: %)	
	25年 3月末	25年 9月末	26年 3月末	25年 3月末比	25年 9月末比
自己資本比率[単体]	10.34	10.48	10.28	—	—
自己資本比率[連結]	10.53	10.67	10.32	—	—

	旧基準		新基準	(単位: %)	
	25年 3月末	25年 9月末	26年 3月末	25年 3月末比	25年 9月末比
自己資本比率	11.16	11.24	10.88	—	—

○ じもとホールディングスの連結自己資本比率は、10.41%となりました。

○ きらやか銀行の単体自己資本比率は、10.28%となりました。
○ 連結自己資本比率は、10.32%となりました。

○ 仙台銀行の単体自己資本比率は、10.88%となりました。

※ 平成26年3月末より、改正後の自己資本比率規制(バーゼルⅢ)が国内基準行に適用されたことにより、従来の自己資本比率との算出方法が異なります。

⑪平成27年3月期業績予想

(1)じもとホールディングスの連結業績予想及び配当方針

	(単位:百万円)	
	平成27年3月期	中間期
		(参考) 平成26年3月期 実績
経常利益	3,500	1,200
当期純利益	3,100	1,100

基 準 日	第2四半期末	期末	年間
配 当 予 想	2円50銭	2円50銭	5円00銭
(参考)平成26年3月期	2円00銭	2円00銭	4円00銭

- じもとホールディングスの平成27年3月期の連結業績予想は、経常利益35億円、当期純利益31億円を見込んでおります。
 ○じもとホールディングスの平成26年3月期の期末配当は、1株あたり2円を予定しております。
 また、平成27年3月期の年間配当金は、5円を予定しております。

(2)子銀行の個別業績予想

きらやか銀行

	(単位:百万円)	
	平成27年3月期	中間期
		(参考) 平成26年3月期 実績
経常利益	2,200	600
当期純利益	2,000	500

仙台銀行

	(単位:百万円)	
	平成27年3月期	中間期
		(参考) 平成26年3月期 実績
経常利益	2,100	1,000
当期純利益	2,000	1,000

- きらやか銀行単体ベースでは、経常利益22億円、当期純利益20億円を見込んでおります。
 ○仙台銀行単体ベースでは、経常利益21億円、当期純利益20億円を見込んでおります。

2. 両行における取組みについて

① 仙台銀行のトピックス ～アクティブリスニングによる本業支援～

平成25年4月より、じもとグループの統一行動指針として「**本業支援**」を掲げ、**東日本大震災からの復興支援**にさらに取り組むべく、体制の整備と支援活動を展開しております。

本業支援の体制強化

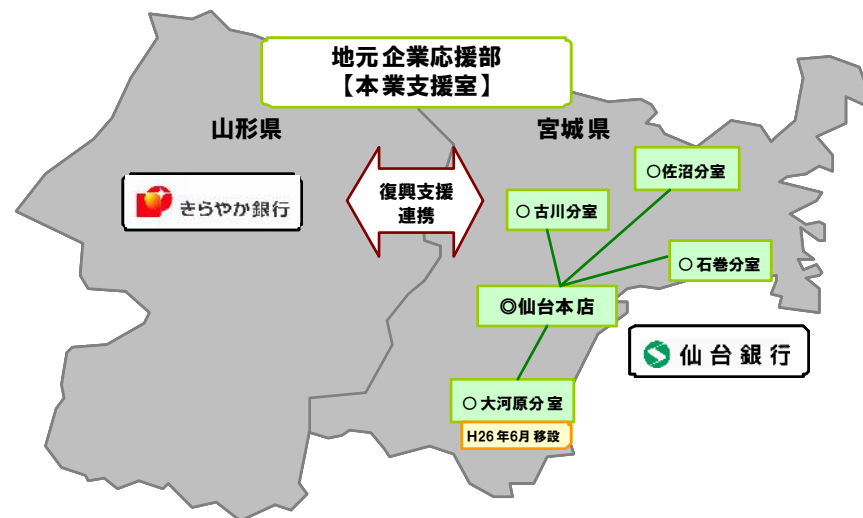
① 組織の整備

- 地元企業応援部(平成23年6月新設)の分室を、古川、大河原、石巻、佐沼に設置
⇒本店を含む宮城県内5拠点体制で、**復興支援を継続的に実施**
- 平成25年10月に、地元企業応援部内に「**本業支援室**」を新設。
⇒**お取引先のニーズに的確かつ迅速に対応する体制を整備**
- 行内向け本業支援「**行動基準**」を策定、**アクティブリスニングシート**を導入。
- 企業支援に係る**外部専門家**との連携を強化。

② 人材の育成

- 監査法人トーマツを講師とした「営業店長向け本業支援研修」を計2回実施。
- 営業店の各ブロックで「次長及び行員向け本業支援研修」を計14回実施。

“お客様から喜んでいただき”、東日本大震災からの復興をさらに支援するべく、「**本業支援**」の取り組みをさらに強化しております。



具体的な事例

震災の津波による塩害

農地や施設が壊滅的な被害

想い

- ・ 6次産業化で地域農業の復興を実現したい。
- ・ 今後の農業のみちさき案内人になりたい。

【農業者】

復興プロジェクト

- 被災農家が農業法人を設立
- 農地に大規模な野菜の養液栽培施設建設を計画
- トマト・レタス等の生産に加え、加工・流通までの6次産業化を目指す

【農業法人】

経営支援

同社の生産・販売・資金を総合的に支援

三菱商事復興支援財団

【農業経営アドバイザー】

仙台銀行

市や大手企業も計画に参加

Key Point

- ① **外部連携の強化による復興支援の加速化**
- ② **新たな雇用創出と地域の活性化**
- ③ 事業者の考える「将来あるべき姿」への**本業支援の実施**

施設完成！
事業がスタート



① 仙台銀行のトピックス ～震災復興支援に向けた取組み～

復興支援の実績

	平成25年度		実績累計	
	件数	金額	件数	金額
被災者向け新規融資実行	1,107件	325億円	4,055件	1,046億円
うち事業性資金	888件	308億円	3,027件	936億円
うち消費性資金(住宅ローン等)	219件	17億円	1,028件	109億円
第一次産業向け融資(農業・水産業)実行	29件	5億円	86件	25億円
宮城産業復興機構の活用	10件		20件	
東日本大震災事業者再生支援機構の活用	25件		40件	
私的整理ガイドラインの活用	19件		30件	

復興支援の具体的取組み



【食品会社】

津波で工場が全壊したが、当行の支援で工場を早期に再建

事業再開(2年経過)

新たな悩み

- もっと当社の商品を知ってもらいたい
- 販路を拡大したいが、ノウハウ不足

追加支援



- ・ 中小企業支援の専門家を紹介し、**販売戦略を立案**
- ・ **ビジネスマッチングを実施**

Key Point

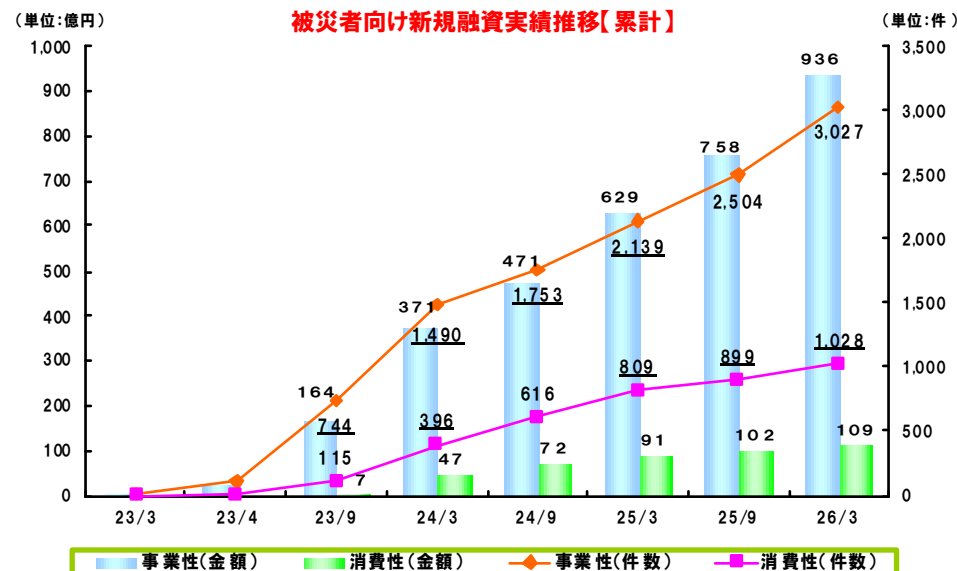
継続的な本業支援により、顧客の復興ニーズの変化へ対応



- ◇ 自社ノウハウを活かし、対面販売を強化
- ◇ 地元スーパーとのマッチング実施



被災者向け新規融資実績推移【累計】



被災店舗の新築・再出店の状況

震災復興に向けて、被災店舗の新築・再出店を順次実施

- 平成24年 5月 移動店舗「どこでも窓口」導入
- 平成25年 1月 将監支店
- 平成25年 6月 大河原支店
- 平成25年 7月 塩釜支店
- 平成25年11月 苦竹支店
- 平成26年 1月 志津川・歌津支店

※宮城県沿岸部の復興支援体制を更に強化



事業ニーズにマッチした提案



【A社】

●内装工事業
※他行メイン先

悩み

・売上が年々減少



社長より売上増加策についての相談

A社の顧客データの管理・分析を行い、事業を把握

本業支援

- ①購入後5年以上経過した先へのDM発送を提案
- ②新規顧客として不動産賃貸業者を紹介

組織的な対応で悩みを一手に解決



【B社】

●建築用資材製造業

悩み

- ①製品開発のコスト削減
- ②販路拡大
- ③品質の改善



アクティブリスニングにより、B社の悩みを聴き取り

本部及び仙台銀行と連携し、様々な提案を実施

本業支援

- ①コスト削減 … 中小企業ものづくり支援補助金を提案（本部）
- ②販路拡大 … 宮城県内における営業先を紹介（仙台銀行）
- ③製品改善 … 県産材を活用した高付加価値製品の生産を提案

お客様の大小様々な悩みを解決するべく、「チームきらやか」として「本業支援」に取り組んでおります

【C社】



●電気通信工事業

悩み

・仙台市内の土地を購入したい

本部・支店で情報の共有



情報



2日後

本部と連携し、C社を訪問

本支店が一体となったスピーディーな対応

本業支援

不動産情報の収集などの対応を約束
後日、取得した情報をC社へ提供

【D社】



悩み

- ・不安定な市場環境、価格競争激化による経営状態の悪化
- ・過去の不良債権発生による、過大な借入金負担

本業支援

第二会社方式による会社型吸収分割スキームを実施



- ・スポンサー企業の選定
- ・外部専門機関の活用

会社分割

- 収益部門 … 新会社
- 不採算部門 … 特別清算

※きらやかターンアラウンド・パートナーズ(株)(KTP)とは、お取引先の事業再生を目的として設立した再生専門子会社です

抜本的な経営改善達成

「地域経済の安定」
「企業の事業価値の維持」
「雇用の維持」を確保

対象企業13社のうち
10社の再生支援が完了

子会社を活用した事業再生支援

連携したスピーディーな情報提供

②きらやか銀行のトピックス ～きらやかさんプロジェクト～

従来の個人戦略 お客様の顕在化したニーズに対応する形での**最適提案**

もっと“お客様から選ばれる銀行”になるためには…

「お客さまに“笑顔”と“感謝”と“真心”をもって接し、喜んで頂きたい！！」

◆きらやかさんプロジェクトチーム発足

◆ハートフル作戦始動

想いを形にするために…

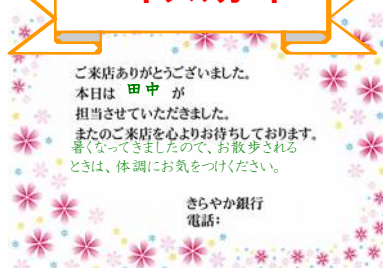
自主的に

女性行員による、
女性行員だけの、
プロジェクトチームが発足



平成25年12月14日山形新聞掲載

ハートフルカード



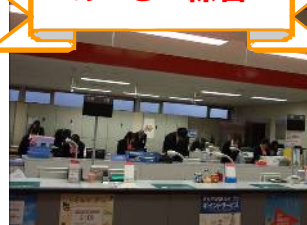
ハートフルバッジ



女性による、
女性のための定期預金



あいさつ練習



その他…

- ・手鏡を置いて、笑顔チェック
- ・保湿ティッシュ、ホッカイロ、傘等ノベルティの配布

- ◆“笑顔に会える”窓口づくり
- ◆お客様の“想い”に向き合う対応

お客様との心の距離を近くする

お客様の笑顔

“お客様から選ばれる銀行”

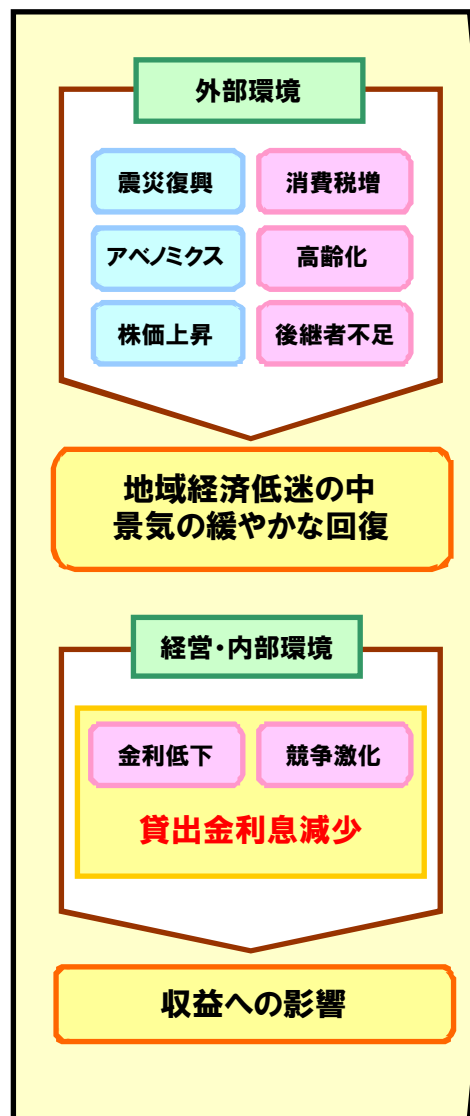
わたしたちが、“きらやかさんプロジェクトチーム”です！！



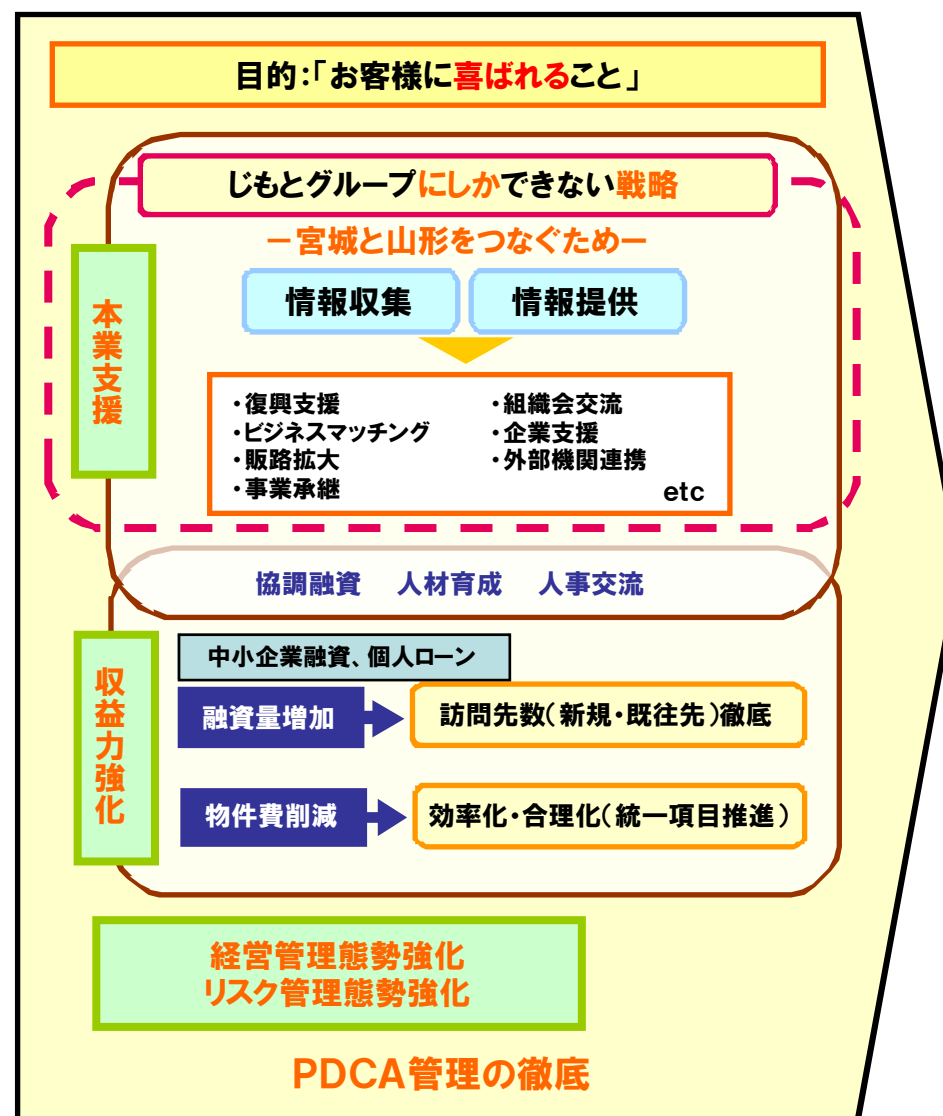
3. じもとホールディングスの取組みについて

①平成26年度 じもとホールディングスのグループ計画

現状認識



じもとグループの取組み



目指す姿



②じもとホールディングスのグループ戦略について

じもとグループの統一行動方針として「**本業支援**」を掲げ、「**アクティブリスニング**(お客様と話し、事業ニーズをお聴きする)」を行い、**組織的、継続的な活動**を展開しております。

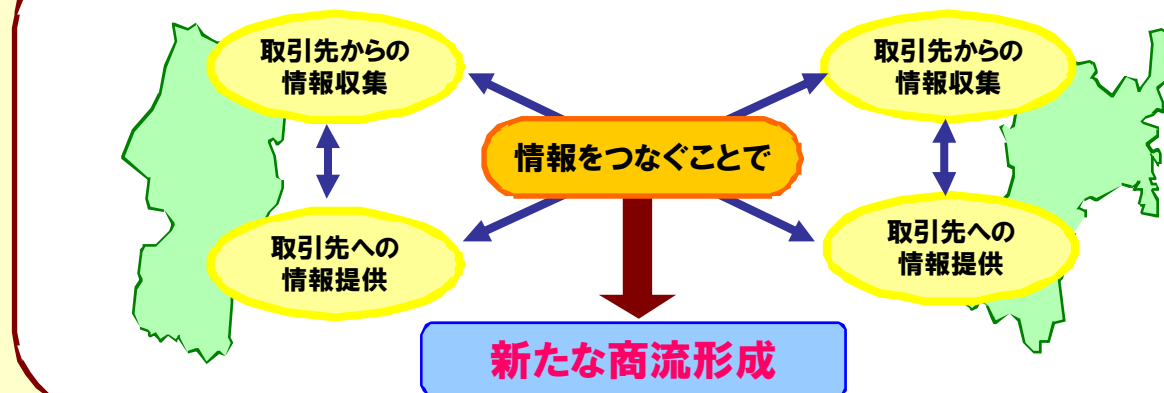
中小企業の皆様のためにできること＝**【本業支援】**を両行で展開

「お客様から喜んでいただく」ために、「**本業支援**」のレベルアップ(組織的・継続的な取組)

じもとグループの特徴発揮

アクティブリスニングに基づく本業支援(全員で動く)

さらなる特徴の発揮 ＝ 宮城・山形のマーケットを活用



震災復興 ・ 地域経済活性化

HD設立後

グループの方針を「**本業支援**」として態勢を整備

今後は

じもとグループにしかできない**特徴**を発揮するべく、**他行にはない宮城・山形両県の膨大な情報量**を活かしていく

③じもとホールディングスのトピックス ～両行が連携した取組み～

両行連携の実績

◆ビジネスマッチング成約件数

	成約件数	顧客間 交渉件数	合計
平成25年度上期	7件	35件	42件
平成25年度下期	23件	48件	71件
合計	30件	83件	113件

◆協調融資・紹介融資の実績

(単位:件、百万円)

		平成25年度		平成24年度
		上期	下期	下期
協調融資	件数	17	9	8
	金額	9,123	3,677	5,446
紹介融資	件数	12	6	6
	金額	651	517	134
合計	件数	29	15	14
	金額	9,774	4,194	5,580

◆住宅ローン紹介実績

(きらやか銀行⇒仙台銀行)実績

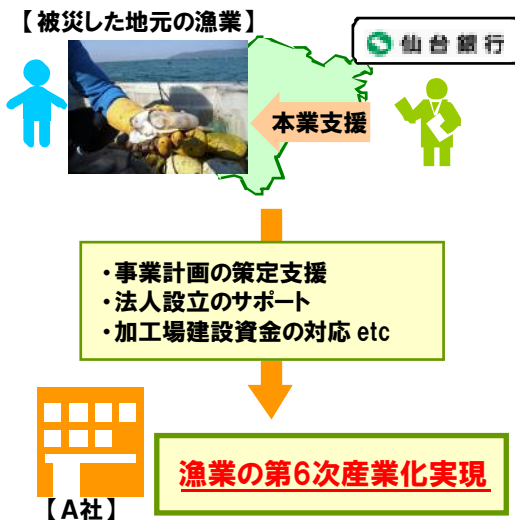
(単位:件、百万円)

平成25年度上期	件数	11
	金額	323
平成25年度下期	件数	9
	金額	284
合計	件数	20
	金額	608

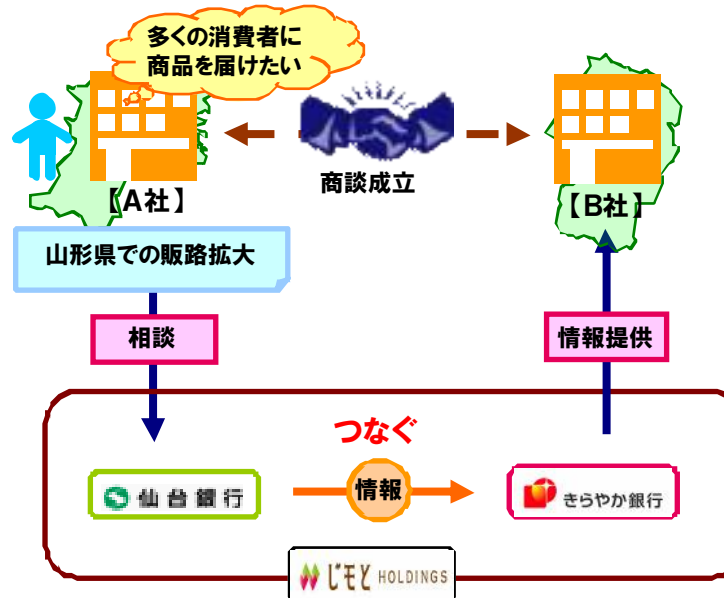
※宮城県内できらやか銀行の店舗が無い地区での住宅ローン情報を、仙台銀行へ紹介

復興支援から本業支援へと展開

H24年度 震災からの復興支援



H25.5～ 販路拡大に向けた本業支援



H25.12 成約

Key Point

- ① 新たな商流の形成
- ② 長期的な復興支援

じもとグループにしかできない
本業支援

③じもとホールディングスのトピックス ～両行共同での取り組み～

「じもと」をつなぐ

～食の商談会in山形～ の開催

平成25年11月8日、山形市内において両行合同商談会『食の商談会in山形』を開催いたしました。

【商談会の概要】

- ・バイヤー 5社（仙台市内拠点の業者様）
- ・売り手企業 27社（両行のお取引先様）
- ・総商談件数 63件
- ・うち成約 15件（平成26年3月末現在）



女性のための年金セミナーの開催

平成26年2月18日、仙台市内において、20代から30代の女性向けに『じもとHD女性のための年金セミナー～買いわたしのエレガンス・スタイル～』を開催いたしました。

【セミナーの概要】

- ・参加者 30名（70名以上の応募）
- ・当日は年金セミナーに加え、地元の有名パティシエの講話もあり、極上のスイーツを堪能しながらの和やかなひとときとなりました。



共同キャンペーンの実施

昨年10月の設立1周年を記念し、「じもとからのありがとう」と題したキャンペーンを実施し、多くのお客様から好評をいただきました。

【キャンペーンの実績】

- ◎個人のお客様向けローンの販売額 1,298百万円
- ◎投資信託販売額 1,470百万円
- ◎個人のお客様向け定期預金販売額 34,994百万円



平成26年6月9日より

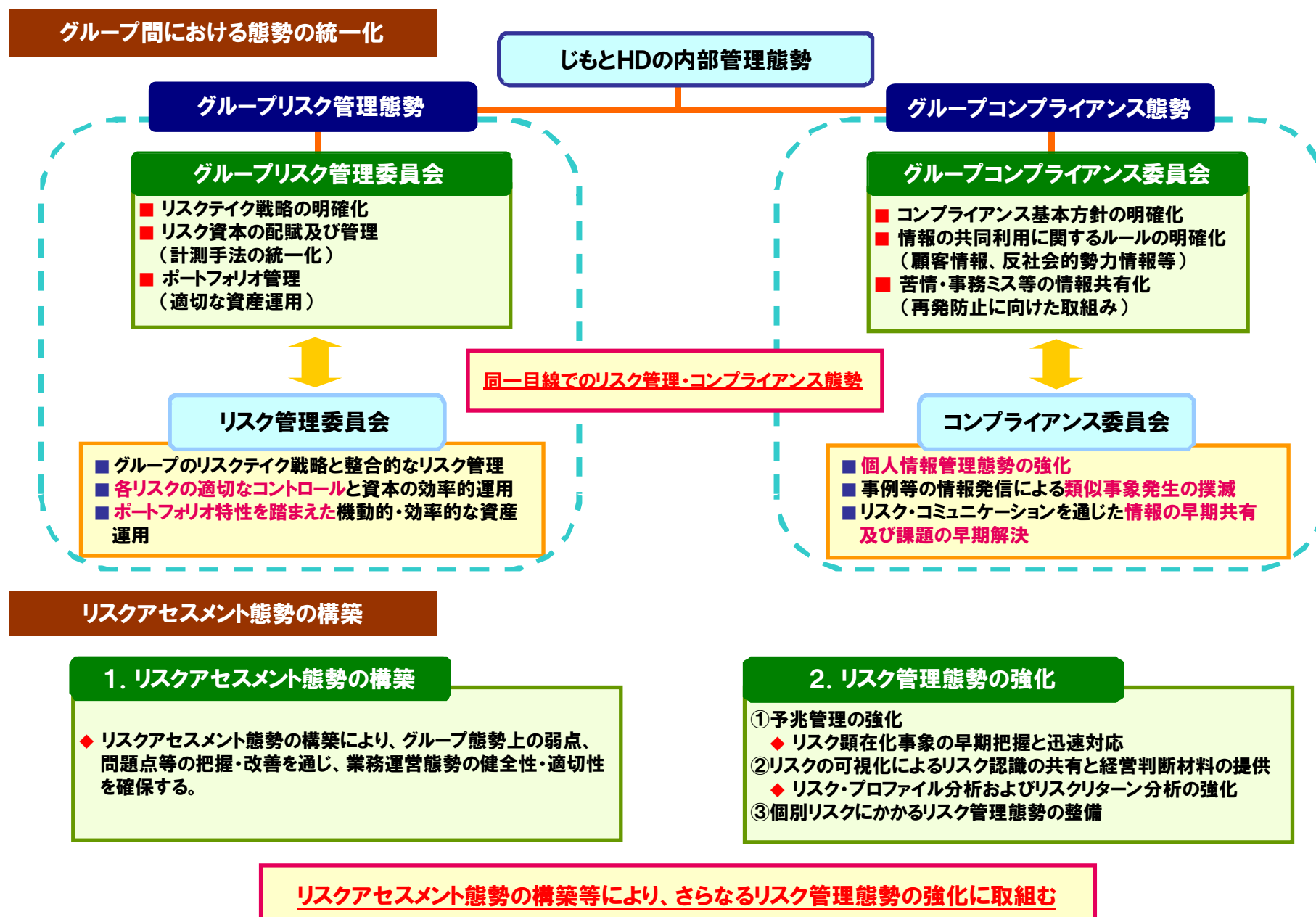
共同キャンペーン「東北の夏、じもとの夏」の実施中

【キャンペーンの特典】

- 特典①
先着1万名様にじもとパッケージの「デオドラントシート」をプレゼント
- 特典②
抽選で「じもと厳選プレミアムなフレッシュジュース」をプレゼント



④じもとグループの内部管理態勢



本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包する
ものです。
将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比で異なる可能性があることに
ご留意ください。

《当資料に関するお問い合わせ先》

株式会社 じもとホールディングス
総 合 企 画 部

TEL:022-722-0011(代表)
<http://www.jimoto-hd.co.jp>